

ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

花園大学 客員教授 みず水 たに谷 おさむ修 氏

1956年横浜市に生まれる。3歳から11歳まで山形の祖父母にあずけられた。上智大学文学部哲学科在学中にヨーロッパに滞在し留学を志すが、祖父が倒れたため帰国して介護にあたる。1983年に横浜市の高校教員となり、1992年には自ら希望して夜間定時制高校に異動、夜の繁華街を徘徊する生徒を見守る活動を始めた。やがて、華やかな夜の世界に誘われて犯罪を犯し、違法薬物等で自らの心身を蝕む子どもが全国にいることに気づく。メールアドレスと電話番号を公開して相談にのった。さらに、自室にこもって自分を責め、リストカットをするなかで何とか生をつなぎ留めている子どもが少なくないことを知る。より多くの子どもを命の危機から救えるよう、2004年9月に教職を辞す。いまま癌と闘いながら、メールや電話で相談にのり、講演と著作を通して、子どもも大人も追い詰める攻撃的な社会の変更を求めている。

水谷氏は「夜回り先生」として知られている。定時制高校の放課後、すなわち、夜の11時頃から繁華街を歩き、若者に声をかけるのである。よほど緊急でなければ補導はしない。叱責するわけでもない。彼らが決して見捨てられていないことを示すために話しかけ、帰宅するように言い、彼らの話に耳を傾ける。彼らが夜の大人の甘い言葉に騙されないように見守り、他に居場所のない彼ら一人ひとりに寄り添うために夜回りをしてきたのである。教員を辞した今も、時間と体調が許す限り、夜回りを続けている。

水谷氏が定時制高校への異動を希望したのは、大学時代の友人との言い争いがきっかけであった。定時制で教えていたその友人は進学校で教員をしていた氏に対し「おまえは優秀な生徒に恵まれ、いい教育ができる。夜間の腐った生徒にいい教育なんかできない」と語った。氏は「おまえは教員を辞めろ。俺が夜間高校に行く」と返したのである。子どもは自ら腐ったりはしない。腐るとすれば、大人が腐らせたのだ、と。友人は塾の講師になり、氏は学校をかわった。実は、友人はその日、トイレで喫煙している生徒を注意したところ暴力で返され、通りがかった教頭は見ても見ぬふりをして去っていったのだった。氏はそのことを後に知ることになる。

水谷氏自身、一人でいることの寂しさと信頼されることの大切さを、身をもって知っていた。

水谷氏は父親の顔を覚えていない。幼くして両親が離婚し、

写真も処分された。横浜で教員をしていた母親は仕事を続けるために、実家に息子をあずけるしかなかった。山形の祖父母の生活は楽ではなかった。両親のいない子に周囲は冷たかった。

そしてまた、水谷氏も学校や教師への不信感を抱きながら育った。中学生のとき、クラスメートに対する教師の暴力に異議を唱えた。その教師は氏を廊下に出し、拳を差し出した。全力で走って頭でぶつかってこい、ということだった。別の教師が「おまえがぶつかってくるのだから、体罰じゃないだろ」と言った。氏はその不条理感と怒りから、止めろと言われても何度も強く教師の拳に頭をぶつけた。

水谷氏の教師不信を取り除いてくれたのは大学の恩師であった。友人ほしさに出かけた華やかな夜の世界は、借金という形で氏を捕らえて放さなかった。母は氏を救うために留学のチャンスを与えてくれた。しかし、留学をかなえることができないまま帰国せざるをえなかった氏は、自暴自棄になり、大学へも行かず夜の街に再び出かけていた。そうしたなか、未明に自宅に戻ると、哲学科長であった渡辺秀教授が氏の帰宅を待っていた。何もとがめず、今も大学には氏の居場所のあることを教えてくれた。信頼され、見守られることによって氏自身が救われたのだった。

水谷氏の実践は、揺るぎのない教育哲学に支えられたものである。すなわち、危機にある子どもを救うためには、大人が、そして社会が変わらなくてはならない、ということである。この哲学を、氏は自らの経験を通して、また、危機にある子どもと直接触れ合うことを通して導き出した。子どもを取り巻く問題は、実は大人が作り出した社会の問題である。大人が子どもを利用し、騙し、捨てる。あるいは、子どもを生きにくさのほけ口にする。夜の街を徘徊し虚勢を張る子どもも、ドラッグに逃げ場を求める子どもも、リストカットをして自らを傷つける子どもも、みな大人が作り出した社会病理の犠牲者なのだ。子どもの問題行動を個人的な属性と見なしている限り、犠牲者は後を絶たない。子どもを責め立て、騙し、利用しようとする攻撃的な社会が変わらなければ、事態は変わらない。大人が幸せにならなくてはならないのである。

一人ひとりの子どもを救いつつ、社会に変更を求め続ける水谷氏の姿は、ペスタロッチーの姿に重なる。ペスタロッチーはフランス革命後の社会の混乱の中で行き場も将来への希望も失い、街をさまよう子どもを救うべく、シュタンツに孤児院を開いた。そこでの成果を教育方法の開発として一般化し、どのような状況にいる子どもでも学ぼうすることを教育実践と文筆活動によって世に知らしめたのである。水谷氏の長年の努力と功績に対し、第23回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。